

第 37 回初期消火技術発表会実施計画

岡崎市危険物保安連絡協議会

1 目的

岡崎市危険物保安連絡協議会員である各事業所の従業員の災害発生時の的確な活動要領及び迅速かつ確実な初期消火技術の練磨を図り、事業所の自主防災体制の強化と防火意識の高揚を図ることを目的に実施する。

2 日時

令和 6 年 10 月 24 日(木) 10 時から（小雨決行）

※受付は 9 時 30 分から

3 場所

岡崎市高隆寺町 岡崎中央総合公園運動広場

4 参加者

岡崎市危険物保安連絡協議会 会員事業所

5 種目

団体の部（屋内消火栓設備等）

6 順位の決定

競技所要時間を点数化し、違反点数を加算、ハンデを減算して、合計点の少ないチームを上位のチームとする。

(1) 所要時間による得点

係員のスタートの合図から、実施要領による競技終了までの所要時間を計測し、1 秒 1 点とする。

(2) 違反行動による加算

安全、確実な行動を審査し、違反点数を加算する。

(3) ハンデによる減算

当日満 55 歳の年齢に達している競技者及び女性を含むチームは、1 名につき 3 点を減算する。

7 表彰

- (1) 消防長表彰

最優秀賞（1位）

- (2) 協議会長表彰

優秀賞（2位・3位）

特別賞（2チーム）

8 服装等

- (1) 服装…各事業所指定の作業服等又は安全で活動しやすい服装とする。
- (2) 履物…運動靴等の安全なものとする。
- (3) ヘルメット…各事業所指定又は事務局の貸出ヘルメットとする。
- (4) 手袋…各自持込の作業用手袋又は軍手とする。

9 その他

- (1) 当日は別添の出場メンバー表を受付に提出してください。
- (2) 参加者は健康状態に十分配慮し、当日は体調が良好であること。
- (3) 荒天等により発表会を中止する場合は、参加事業所の担当者へ連絡します。
- (4) その他必要事項は、協議会長の指示による。

団体の部実施要領

1 チーム構成

1 チーム 3 人の編成とし、あらかじめ次の担当を決めておくこと。

1 番員（以下①）患者接触及び胸骨圧迫、筒先

2 番員（以下②）119 番通報、筒先補助及び伝令

3 番員（以下③）A E D 操作、2 回目の胸骨圧迫、消火栓バルブ操作

2 競技要領

(1) 係員の指示でスタートラインに 3 人並んで立つ。

(2) 係員のスタート合図で、3 人そろって出入口を通過する。

(3) ①は、**安全確認位置**で周囲を見渡し、安全を確認して「**周囲の安全よし**」と指差し呼称を行い、②③と同時に患者接触し応急救護を行う。

【応急救護の要領】参照

(4) 「事業所の救護員役」に引継ぎ後、3 人そろって**火元確認位置**に至り、①が「**前方に火元確認**」と呼称後、以下の活動を実施する。

ア 訓練用水消火器による標的 1 の処理

イ 危険物を安全エリアに搬送（1 人で 2 個同時に搬送しない）

ウ 送油バルブの閉鎖

※個別行動可能、処理順番は不問

(5) 3 人そろって**屋内消火栓前**に至り、屋内消火栓による消火を実施。

【屋内消火栓の操作要領】参照

3 会場図

別紙（団体の部）のとおり

4 違反事項（違反点数は各 10 点）

(1) 競技要領違反

ア 活動エリアから外に出たとき

イ 各種呼称等（**各要領の赤カッコ部分**）が不適切なとき
（間違えた後、すぐに正しく言い直した場合は違反としない）

ウ ①の「反応の確認」または「呼吸の確認」が不適切なとき

エ ②119 番通報が不適切であったとき

オ ①または③の胸骨圧迫が不適切なとき

カ ③の A E D の操作が不適切なとき

キ 標的 1 の消火失敗及び消火要領が不適切なとき

ク ③が起動ボタンを押さなかったとき

- ケ ホースの延長、操作が不適切なとき
- コ 放水停止線より足がはみ出たとき（足がライン上はOK）
- サ 競技者及びホース等の接触によりカラーコーン、バー及び障害物の位置がズレたとき
- シ ③が②の合図なしにバルブ操作を行ったとき
- ス 放水中に①が筒先から手を離したとき
- セ 放水中に②がホースの補助を怠ったとき（伝令、ホース整理時は除く）
- ソ 放水の伝令位置、動作が不適切なとき
- タ 標的の処理順を誤ったとき
- チ 活動エリア内への放水または著しい漏水があったとき
- ツ その他、競技要領に沿わない行動をしたとき

(2) その他

- ア 危険行為（転倒・ヘルメット脱落・あご紐、靴紐はずれ等）
- イ 器具損傷に結びつく行為
- ウ チーム内以外の者（応援者等）からアドバイスがあったとき
- エ その他審査長が危険・違反・不適切と認めた行為

※同一の違反事項について、複数回の該当がある場合は、回数分の違反点数を加算するものとする。（例：各種呼称等を3回間違い＝30点加算）

5 その他

- (1) 不可抗力により競技中断または実施困難となったときは、再競技を認める。（使用器具の不具合など）
- (2) 団体の部の競技に使用する AED トレーナーは、協議会の所有する日本光電製 AED トレーナー（TRN-2150）とする。
- (3) 標的までの距離は、当日の気象状況等により決定する。

【応急救護の要領】

- 1 ①は、患者の顔貌等を注視しながら患者の両肩を両手で叩き、「**大丈夫ですか。大丈夫ですか。**」と2回呼びかけて反応を確認する。
患者は、呼びかけに反応がない状態のため、「**意識なし**」と呼称して、②に対し「**〇〇は119番通報してください**」、③に対し「**〇〇はAEDを持ってきてください**」と具体的に指示する。（普段通りの呼び方とする。）
- 2 ①は②③に依頼後、患者の呼吸状態を確認する。患者の上半身の側方に座り、患者の胸や腹部の上がり下がりを見、5秒以上10秒以内で見て、呼吸のないことを確認し、「**呼吸なし**」と呼称して、直ちに胸骨圧迫をAEDが到着するまで継続する。
- 3 ②は119番通報場所に行き、119番通報を実施後、患者のところへ戻り、「**通報完了**」と①に報告する。【119番通報要領】参照
- 4 ③はAEDを調達して戻り「**AED到着**」と①に報告する。
①は胸骨圧迫を継続しながら③に「**AED準備**」と指示し、③はAEDを患者の側方に置き、AEDのふたを開ける。電源が自動的にONとなり、AEDの自動音声流れるので、処置を実施する。胸部にペースメーカー、貼付薬、水気、胸毛、ネックレスなどの通電障害のないことを確認し、「**胸部よし**」と呼称し、電極パッドを貼る。パッド貼付後、自動的に心電図の解析が始まるので、「**解析します。離れて。**」と①を離し、誰も患者に触れていないことを確認する。AEDが「電気ショック必要」と判断し、充電を開始する自動音声流れたら「**ショックします。私よし、あなたよし、周りよし。**」と周囲の安全を確認し、ショックボタンが点滅し、通電を促す自動音声が発せられたら、誰も患者に触れていないことを確認してショックボタンを押す。その後、直ちに③が胸骨圧迫を再開する。
- 5 胸骨圧迫を再開した約10秒後に「事業所の救護員役」が応急手当の引継ぎに参上するので、③は救護員と胸骨圧迫を交代し、①は救護員に患者の状況を「**発見時、意識呼吸なし。心肺蘇生を実施し、AEDで電気ショックを1回実施しました。**」と申し送る。なお、交代時の胸骨圧迫の中断は極力短時間となるように最大限の配慮をすること。

★適切な胸骨圧迫

胸の左右真ん中にある胸骨の下半分を、重ねた両手で強く、速く、絶え間なく圧迫する。両肘をまっすぐに伸ばして手の付け根の部分に体重をかけ、真上から垂直に患者の胸が約5cm沈むまでしっかり圧迫し、1分間に100から120回の速いテンポで連続して絶え間なく圧迫する。圧迫解除時には胸が元の高さに戻るようにする。

【119 番通報要領】

どうされましたか：建物内で爆発事故が発生

場所はどこですか：〇〇町の〇〇〇株式会社 ※自事業所の情報

人的被害はありますか：意識の無い負傷者が1名いて応急処置を実施中

危険物がありますか：保有している主な危険物（1品目）※自事業所の情報
消防隊と救急隊が向かいます。

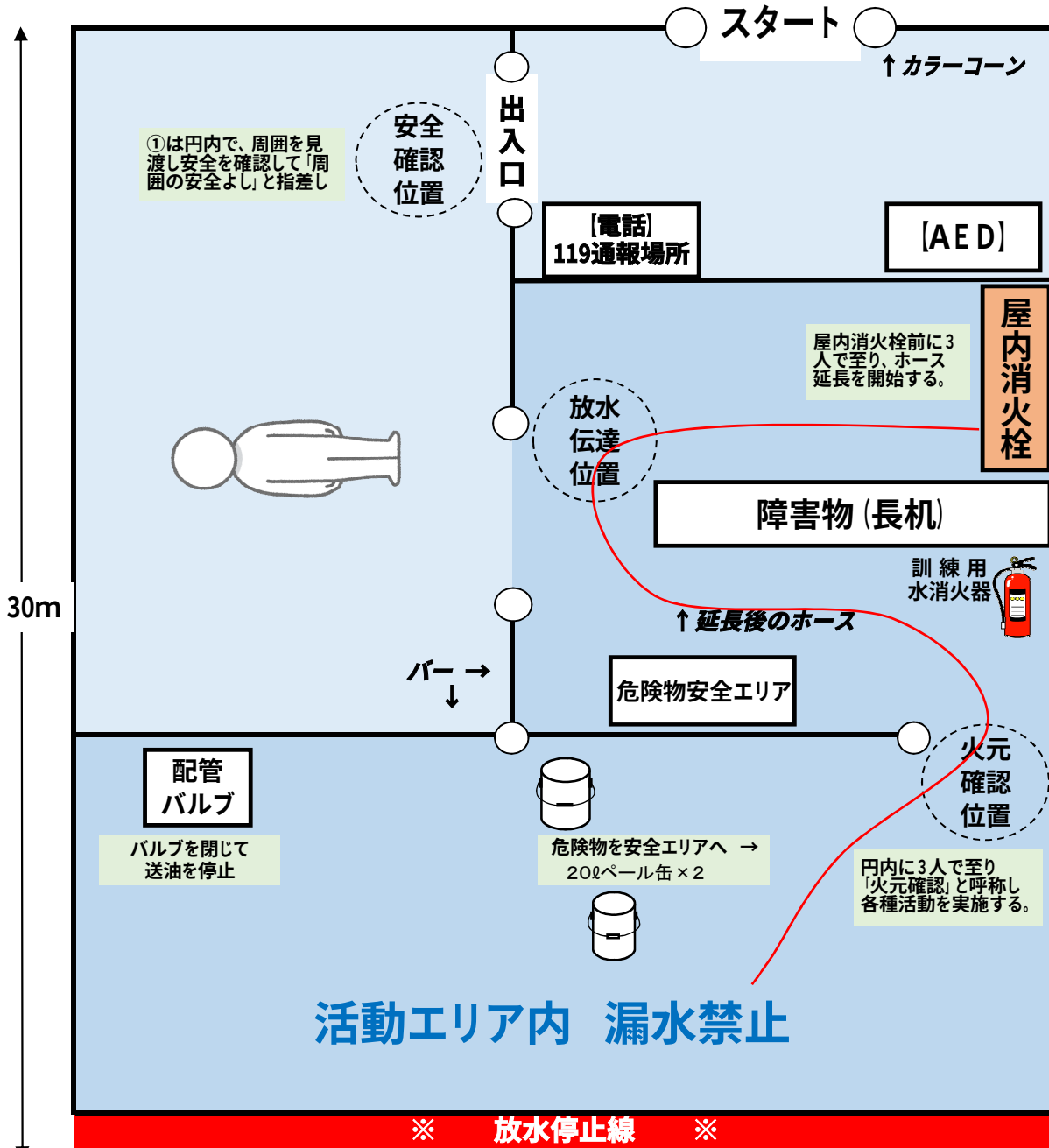
【屋内消火栓の操作要領】

- ①と②は協力して放水停止線まで屋内消火栓のホースを延長する。③は起動ボタンを押す。③は火元確認位置より手前のホースの整理が可能
- ①と②のホース延長が完了したら、①は筒先を構えながら、②に「放水始め」と呼称し、②は「放水始め」と復唱する。
- ②は復唱後、放水伝達位置へ行き、③に向かって右手を真上に挙げ「放水始め」と呼称する。③は「放水始め」と復唱し、バルブを開放する。
- ①と②は協力して第2標的、第3標的の順に処理する。なお、第2標的から第3標的に移動する際には放水停止を必要としない。
- 第3標的処理後①は②に「放水止め」と呼称し、②は「放水止め」と復唱する。
- ②は復唱後、放水伝達位置へ行き、③に向かって右手を真横に挙げ「放水止め」と呼称する。③は「放水止め」と復唱し、バルブを閉止する。
- タイム計測は、③が「放水止め」と復唱する最後「め」までとする。

★活動時の留意事項

- 競技者及びホースは、カラーコーン、バー、障害物に強く接触したり、上下を通過しないこと。
- ③の消火栓バルブ操作は、②の「放水始め」、「放水止め」で行うこと。
- 放水中は、①は両手で筒先を保持し、②は①の後方で補助を行うこと。ただし、②が放水の伝令及びホースを整理するために離れる場合を除く。
- 第2標的 18L ポリ容器 4つを1、2、3、4の順に落下させること。
- 活動エリア内に漏水、放水しないこと。

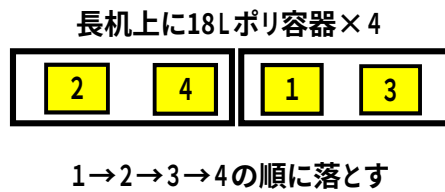
会場図 (団体の部)



第3標的
屋内消火栓



第2標的
屋内消火栓



第1標的
水消火器



※当日の気象状況等を考慮して、標的までの距離を決定します。

15m